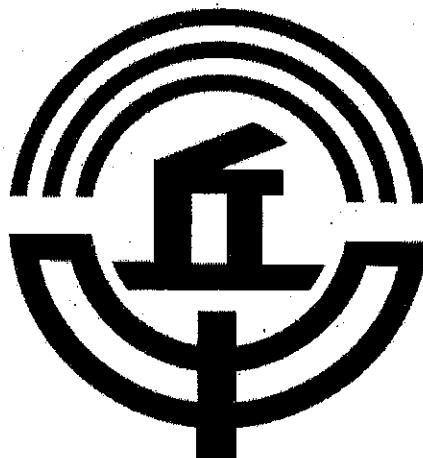


令和 4 年度

学 校 評 價

-結果と分析、今後に向けて-



みよし市立三好丘中学校

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
生徒アンケート 結果、分析と今後に向けて・・・・	2
保護者アンケート 結果、分析と今後に向けて・・・・	4
教職員アンケート 結果、分析と今後に向けて・・・・	6
生徒・保護者・教職員アンケート 三好丘中学校の誇れる点・・・・	8
自由記述欄にいただいたご意見・・・・・・・・	9
今後の取組　・教員一人一人の今後の取組・・・・	11
・令和5年度 本校の「五つの改善」・・・	14

～保護者・地域の皆様へ～

はじめに

本年度の学校評価がまとまりました。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対応があつたものの、毎日の授業をはじめ、行事や部活動等、学校生活はほぼコロナ前と同様の活動ができるようになりました。

昨年10月末には市教育委員会委嘱による研究発表会を開催したところ、市内外から多数の参加があり、本校の授業づくりの成果を評価していただきました。研究発表以降も継続して研究に取り組み、生徒が主体的に学びを深め合う授業づくりを進めていきます。

本校は「子どもが通いたくなる学校 保護者が通わせたくなる学校 教職員が勤めたくなる学校」をめざし、「信頼」をキーワードに全職員が一丸となって教育活動にあたっています。

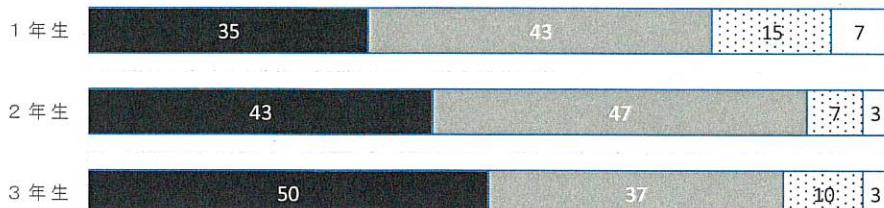
今回のアンケートで語られた生徒・保護者・職員だけでなく、地域や専門機関の方の声を糧に、これからも学校づくりを進めていきます。

今後も、三好丘中学校へのご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

学校生活について

【R4.11実施 アンケート回収率 1年生: 89% 2年生: 93% 3年生: 86%】

私は、学校が楽しい



<全校の肯定群の経年変化>

R2:87.3 R3:85.2 R4:85.4

<分析と今後にむけて>

○肯定群は昨年度と同程度であった。2年生は5.8p、3年生は3.7p昨年度より増加している。「学校が楽しい」と感じられるよう、学校生活の中心である授業の改善を引き続き進める。

○「縦割りの活動を増やしたい」という意見が多くたった。今後も生徒の思いを大切にし、生徒が主体的に学校生活を楽しむことができ

<全校の肯定群の経年変化>

R2:76.0 R3:81.4 R4:82.6

<分析と今後にむけて>

○昨年度からこの質問に変わった。全校の肯定群は微増だが、3年生で+3.6pとなった。生徒からは昨年度同様「わかりやすい授業をしてほしい」という意見が多数あった。

○「わからない」という声を大切に、今後も学び合いやICT機器の活用等、授業改善を進めていく。

<全校の肯定群の経年変化>

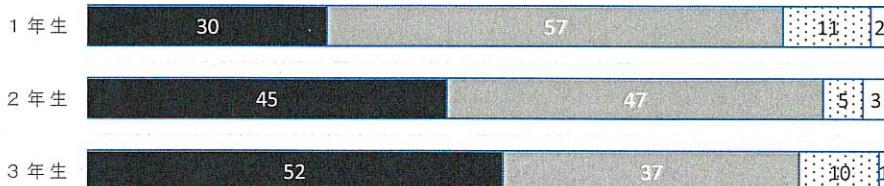
R2:92.3 R3:91.4 R4:89.9

<分析と今後にむけて>

○これまでより全体では肯定群がやや減少傾向ある。

○善良な言動ができる生徒を三丘賞への推薦をさらに推進する。また、自治能力や主体的に良い生活する力を育むために、生徒の声を取り入れながら実情に応じたきまりの見直しを行いたい。

私は、時間やきまりを守り、係活動や当番活動などに責任をもって生活している



<全校の肯定群の経年変化>

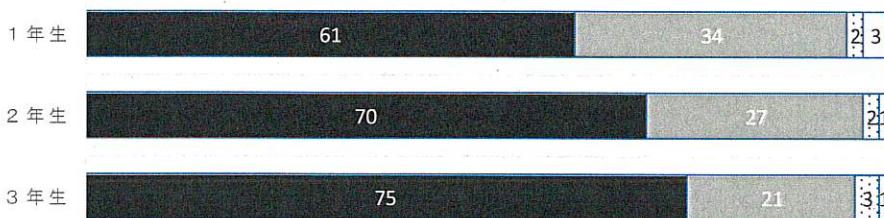
R2:92.3 R3:91.4 R4:89.9

<分析と今後にむけて>

○これまでより全体では肯定群がやや減少傾向ある。

○善良な言動ができる生徒を三丘賞への推薦をさらに推進する。また、自治能力や主体的に良い生活する力を育むために、生徒の声を取り入れながら実情に応じたきまりの見直しを行いたい。

私は、友達とかよく生活している



<全校の肯定群の経年変化>

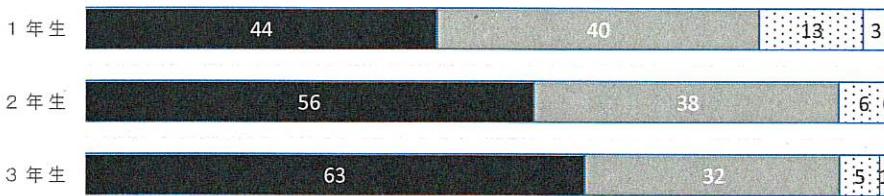
R2:95.7 R3:95.7 R4:96.2

<分析と今後にむけて>

○肯定群が95%を超えた。授業や行事で互いの考えを聞き合うなど協同的な活動を継続し、良好な関係づくりを進めた成果と考える。

○教育相談や定期的なアンケートを実施し、人間関係のトラブルの早期発見・早期対応に努めているが、今後も生徒の小さな変化に気付き、声をかけていきたい。

私は、事故にあったり、病気やけがをしたりしないように気をつけて生活している



<全校肯定群の経年変化>

R2:92.7 R3:92.6 R4:91.1

<分析と今後にむけて>

○肯定群の変化は同程度であった。感染症対策を継続した取組による成果と考える。

○今後も「コロナ慣れ」とならず、感染対策を継続したい。また、交通安全については、登下校や帰宅後の生活でのルールやマナー向上について、生徒が主体となつた取組を進めたい。

■ そう思う

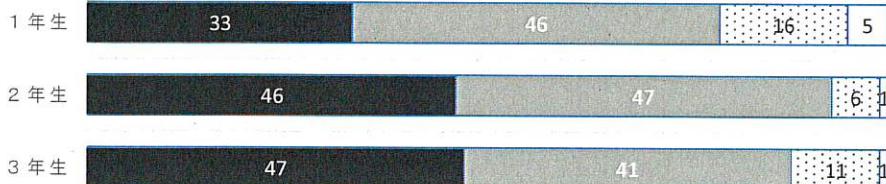
■ どちらかといふ

■ どちらかといふ

□ そう思わない

生徒アンケート

私は、先生や友達に気持ちの良いあいさつを進んでしている



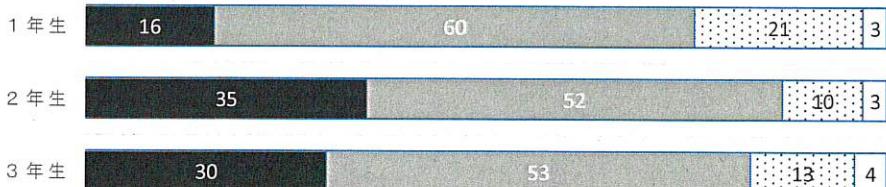
<全校肯定群の経年変化>
R2:83.3 R3:84.2 R4:87.0

<分析と今後にむけて>

○昨年度と比べ、全体の肯定群は増えている。特に2年生は+5p、3年生は強い肯定群が+13pと大きな成果があつた。

○マスクを着用しながらも、所作や目の表情で気持ちを伝えられるよう、教師が率先して気持ちの良いあいさつの仕方を示したい。

私は、「自ら考えて自ら行動する」ことを意識して生活を送っている



<全校の肯定群の経年変化>
R2:84.3 R3:79.9 R4:82.6

<分析と今後にむけて>

○昨年度と比べ肯定群の割合が増加しているが、他の質問と比べ、強い肯定群が少ない傾向がある。規範意識は高いものの、受動的と受け止めていると考えられる。

○3年生は肯定群が+9.3pである。学級活動や生徒会活動等で意図的に生徒主体の活動の場を設定し・評価し、主体性を育てていきた

<全校肯定群の経年変化>

R2:59.3 R3:56.9 R4:60.6

<分析と今後にむけて>

○昨年度と比べ、全体の肯定群がやや高まった。特に2年生は強い肯定群が+7pであった。地域の行事が再開したことが要因と考えられる。

○今後も感染状況を鑑みつつ、地域からの依頼に限らず、学校が地域の一員として積極的に貢献できるような取組を考え、働きかけていく。

<全校肯定群の経年変化>

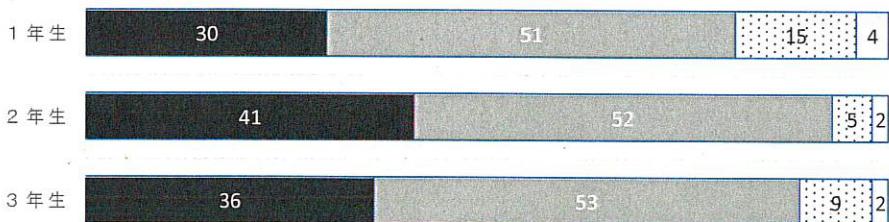
R2:85.0 R3:86.0 R4:88.0

<分析と今後にむけて>

○肯定群が年々増加している。授業改善を進めたり、ペアやグループによる学び合う機会を増やしたりしたことが理由として考えられる。

○感染対策は継続しながらも生徒の学ぶ意欲を高めたり、学ぶ喜びを実感したりすることができる授業づくりを増やしたい。

先生方は、授業を工夫している



<全校肯定群の経年変化>

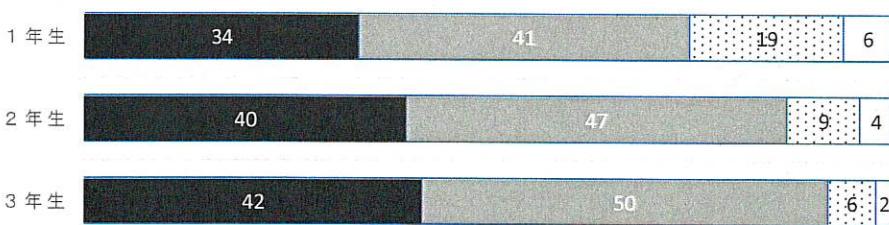
R2:85.0 R3:86.0 R4:88.0

<分析と今後にむけて>

○肯定群が年々増加している。授業改善を進めたり、ペアやグループによる学び合う機会を増やしたりしたことが理由として考えられる。

○感染対策は継続しながらも生徒の学ぶ意欲を高めたり、学ぶ喜びを実感したりすることができる授業づくりを増やしたい。

先生方は、私たち一人一人を大切にし、温かく接している



<全校肯定群の経年変化>

R2:86.7 R3:84.0 R4:85.1

<分析と今後にむけて>

○全校肯定群はやや増加、特に3年生は肯定群が+11pと大幅に増加している。

○生徒に寄り添った指導を心がけるよう努めているが、アンケートからはまだ十分とは言えない記述があった。多感な中学生の気持ちを想像し、きめ細やかに、温かい指導・支援を心がけてていきたい。

そう思う

どちらかというとそう思う

どちらかというとそう思わない

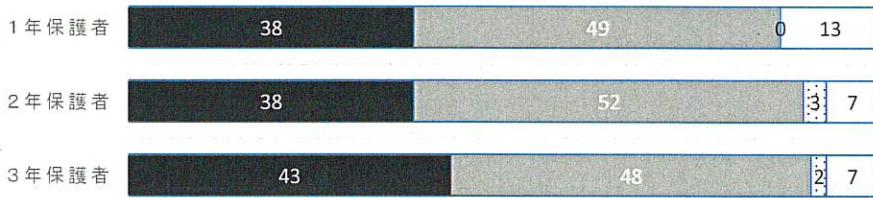
そう思わない

保護者アンケート

生徒の様子や学校の取り組みについて

【R4.11実施 アンケート回収率 1年生:75% 2年生:75% 3年生:64%】

お子さんは、楽しく学校生活を送っている



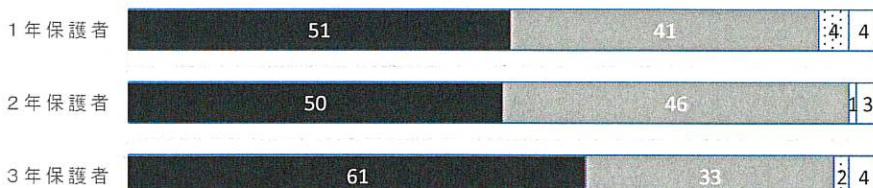
<全校肯定群の経年変化>

R2:89.7 R3:89.9 R4:89.1

<分析と今後むけて>

- 肯定群は一定程度だが、強い肯定群が2年生で+7p、3年生で+11pであった。行事が再開され、保護者が学校の様子を参観できる機会が増えたことが要因として考えられる。
- 自由記述欄などに寄せられた様々な声を真摯に受け止め、信頼に応える学校づくりを進めたい。

お子さんは、友達とかよく生活している



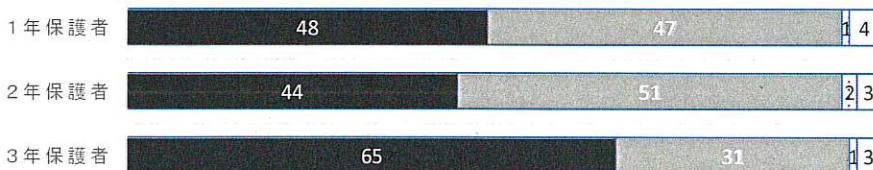
<全校肯定群の経年変化>

R2:95.7 R3:96.6 R4:93.9

<分析と今後むけて>

- 肯定群はやや下がっているものの、強い肯定群は3年生で+10p、2年生で+6pであった。親子間で日ごろから学校での様子を話題にし、肯定的なイメージを抱いていることが伺える。
- 生徒にとって人間関係は、楽しく学校生活を送るうえで大変重要である。学校でも見守りを続けていきたい。

お子さんは、事故にあったり、病気やけがをしたりしないように気をつけて生活している



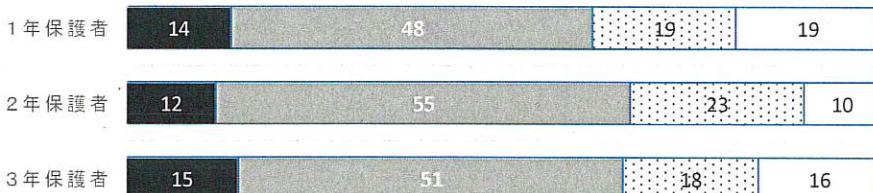
<全校肯定群の経年変化>

R2:92.0 R3:93.8 R4:95.2

<分析と今後むけて>

- 例年と同程度、90%以上の保護者が、安全・健康に気をつけて生活できていると感じている。
- 特に3年生の強い肯定群が+16pで、家庭で高い意識をもって取り組んでいることが要因と考える。
- 今後も生活の基盤となる安全・健康教育を推進していく。

学校は、よく分かる授業をしている

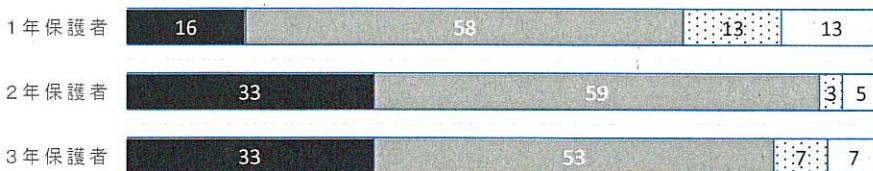


<全校肯定群の経年変化>

R2:70.3 R3:63.0 R4:65.1

- 全校の肯定群はやや増加しているが、強い肯定群が低い傾向にある。
- 学校では校内研修により研鑽を積み、授業改善を進めている。授業参観で学校を見ていたいHPや学校だけで、学校での取組を発信したりしている。授業の進め方について職員の共通理解を図り、継続的に授業改善に取り組んでいく。

学校は、通信やホームページ等を通じて生徒や学校の様子をよく知らせている



<全校肯定群の経年変化>

R2:86.3 R3:82.5 R4:84.6

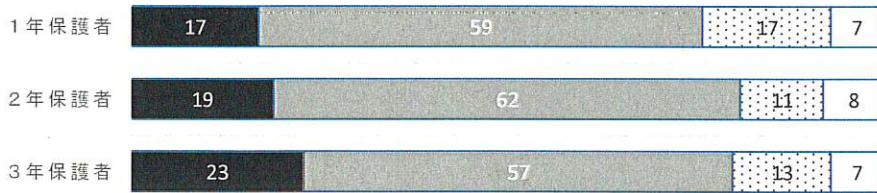
<分析と今後むけて>

- 肯定群は昨年よりやや増加している。特に2年生は強い肯定群が+12pであった。自由記述からHPの充実に関する意見が多数あった。
- 学校の取組を知っていたくことが、保護者との信頼関係構築の一歩である。今後も情報提供をこまめに行うなど発信力を改善したい。

■ そう思う ■どちらかというとそう思う ■どちらかといふとそう思わない ■ そう思わない

保護者アンケート

学校は、生活習慣や規範意識の向上を図る指導に取り組んでいる



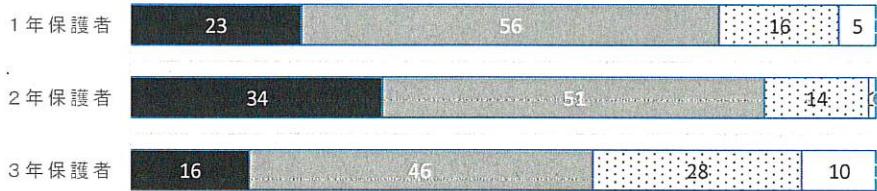
<全校肯定群の経年変化>

R2:83.7 R3:78.4 R4:79.2

<分析と今後むけて>

- 昨年と同程度の結果であった。
- 生徒の自主性を重んじることに努めているが、自由記述からは教師の一方的な指導に関する記述が見られた。指導の方向性について再度共通理解を図る必要がある。
- 今後も、自主性を大切にしながら、確かな生活習慣、規範意識の向上を図っていきたい。

学校は、いじめや不登校、問題行動の予防・早期発見・対応に努めている



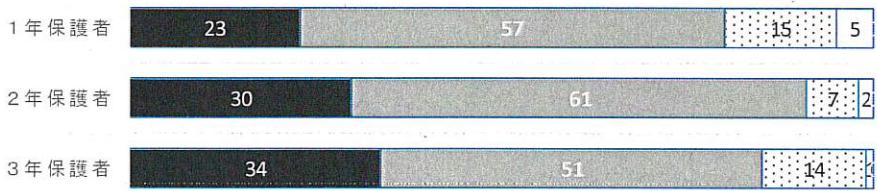
<全校肯定群の経年変化>

R2:68.0 R3:60.6 R4:65.5

<分析と今後むけて>

- 全体の肯定群が+4.9pであった。特に2年生は肯定群で+25p、強い肯定群が+20pと大幅に増加している。
- 他の設問と比べ否定群の割合が大きい。問題の早期発見・早期対応、道徳教育や人権教育等で生徒の心の育成、さらに学校の取組を保護者に発信し、信頼向上に努めたい。

学校は、安全・安心のために教育環境の整備・管理に取り組んでいる



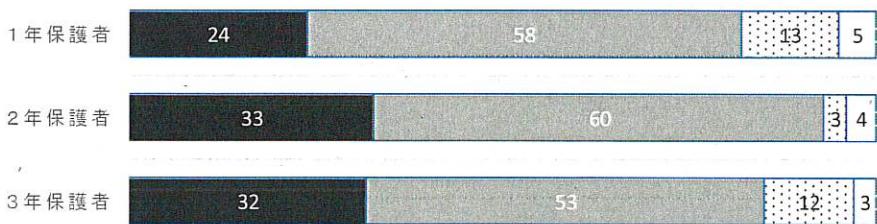
<全校肯定群の経年変化>

R2:88.3 R3:90.4 R4:95.9

<分析と今後むけて>

- 肯定群の数値は例年より+5.4pの増加であった。保護者ボランティアによる消毒活動、外部業者によるトイレ清掃等、感染対策に関する取組の成果と考える。
- 今後も保護者や業者と連携し、生徒にとって安全・安心な環境整備に取り組んでいく。

学校は、生徒を大切にし、温かく対応している



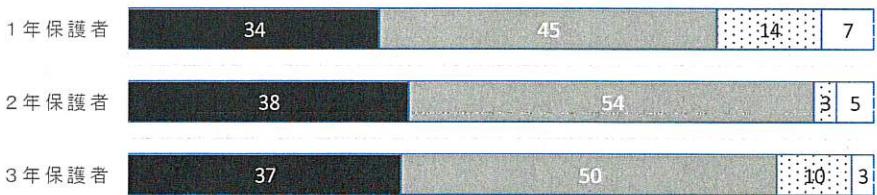
<全校肯定群の経年変化>

R2:84.3 R3:87.4 R4:86.6

<分析と今後むけて>

- 全校の肯定群は、昨年度と同程度だが、強い肯定群は2年生で+7p、3年生で+11pであった。
- 全体としては、温かく対応していると答えられているが、自由記述を見ると、指導に不平等を感じたり配慮に欠ける場面もある。今後も、生徒のことを大切にした学校づくりを進めていきたい。

学校は、保護者に対して誠意をもって対応したり、相談に応じたりしている



<全校肯定群の経年変化>

R2:89.7 R3:86.5 R4:86.2

<分析と今後むけて>

- 全体の肯定群は昨年と同程度である、自由記述欄にあるように、学校の対応が十分でないと感じている保護者もいる。
- 日ごろの指導を真摯に見直し、校長が掲げている「信頼」というキーワードを実現できるよう、全職員で保護者の思いに寄り添った対応を心がけていきたい。

そう思う どちらかというとそう思う どちらかというとそう思わない そう思わない

教職員アンケート

本校の重点努力目標・市共通項目に対する取り組み

【R4.11実施 アンケート回収率 100%】

(五つの改善①) 一人一人が「学びたい」と思える授業づくり努めている



(五つの改善②) 保護者・地域と連携した学校づくり・地域貢献に努めている



(五つの改善③) 生徒とともに学校全体を改善しようと努めている。



(五つの改善④) 生徒のしなやかな心を育てようとしている



(五つの改善⑤) 関わり合いを大切にする温かい学校の実現に努めている



生徒や保護者に寄り添った生徒指導・支援に努めている



出席者を増やし、健康で安全な生活習慣を確立させることに努めている



生徒のためにいきいきと働く教員をめざし、働き方を見直すことに努めている



清掃・安全点検・整理整頓を行うなど、学ぶ環境の整備に努めている



教職員アンケート

自分自身の今年の重点努力目標に向かって、実践を行ったり、研鑽をつんだりしている



(市共通項目) 授業力・指導力向上のために研鑽を積んでいる



(市共通項目) 分かる授業、楽しい授業づくりに努めている



(市共通項目) 子どもの理解に努め、居場所がある学級づくりに努めている



(市共通項目) 安全点検、安全指導に努めている



(市共通項目) 学校と家庭・地域との連携を深めている



(市共通項目) 校務支援システムを活用を図り、事務効率を上げている



■ そう思う ■どちらかというとそう思う ■どちらかというとそう思わない □ そう思わない

<分析と今後にむけて>

○①の「一人一人が「学びたい」と思える授業づくりに努めている」は、昨年度までの「一人一人の学びを保障する授業づくりを推進している」から変更。「一人一人の学びの保障」を前提に一歩進めた目標であったが、全職員が意識をして授業改善に努めてきた結果と考える。本年度の取組をもとに、全職員が共通理解のもとで協同的な学びを中心とした授業づくりをさらに進めていく。

○③「生徒とともに学校全体を改善しようと努めている」は昨年度までの「生徒の声を生かした学校全体を改善しようと努めている」から変更。服装や生活の決まりの見直しや行事の企画運営等にあたり生徒に投げかけ、検討を進めるなど、多くの教員が高い意識をもって取り組んでいる。来年度以降も生徒が主体的に学校生活の改善を進められるよう、継続して取り組んでいく。

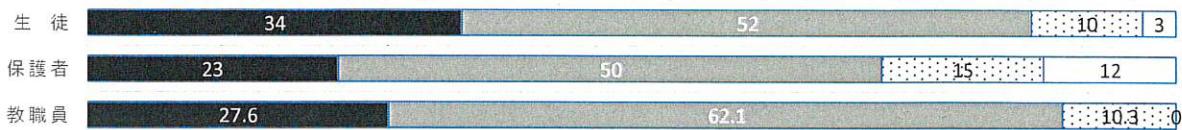
○⑤「関わり合いを大切にする温かい学校の実現に努めている」は昨年度までの「あいさつを大切にする温かい学校の実現」から変更。強い肯定群が高く、ペアやグループによる聴き合いや学び合いを毎日の授業で取り組み、生徒が誰とでも自然に関わり合えるようになってきたことを成果として実感できているといえる。ただし、あいさつについては少しづつ大きな声ができる生徒が増えてきたが、以前の状態には戻っていない。以前のような元気のよいあいさつが飛び交う学校を目指していく。そのためにもまずは、教職員が生徒の模範となるよう積極的にあいさつを行っていく。

○働き方の見直しが課題である。在校時間は教職員の意識が高まり、年々縮減の方向にあるが、まだまだ目標値には程遠い。行事をはじめとした学校の教育活動について、生徒の実態や目指す生徒像の実現に沿った取組であるか見直し、精選することで、効率的・効果的な教育活動を展開したい。また、校務支援システムはじめICT機器の活用で効率化を進めたい。

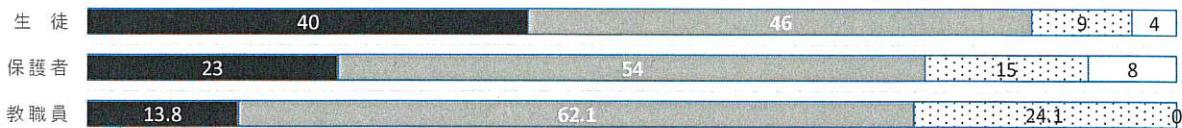
○これらの取組は共通理解のもとで進めていかなければ実現は難しい。来年度以降も、指導の方向性をしっかりと定め、教員が一丸となり、「チーム丘中」として、よりよい学校づくりに取り組みたい。

三好丘中学校の誇れる点

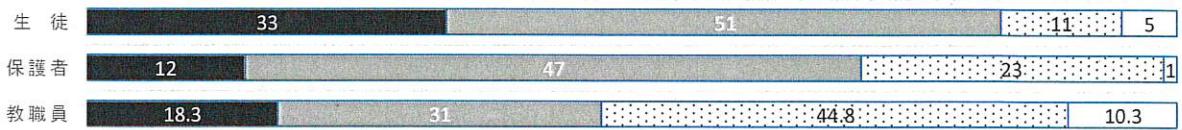
生徒の学習に対する取り組み（知）は本校の誇れる点である



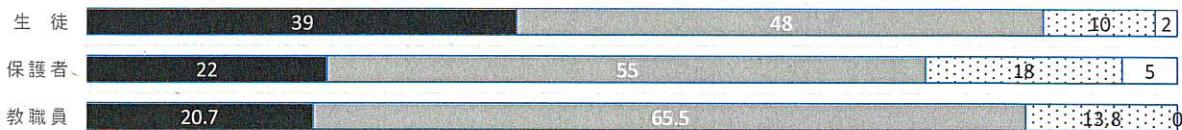
生徒 優しさや思いやりの心（徳）は本校の誇れる点である



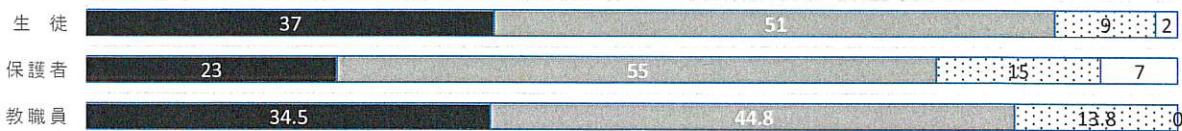
生徒の健康でたくましい体づくり（体）は本校の誇れる点である



地域や保護者のみなさんの協力体制は本校の誇れる点である



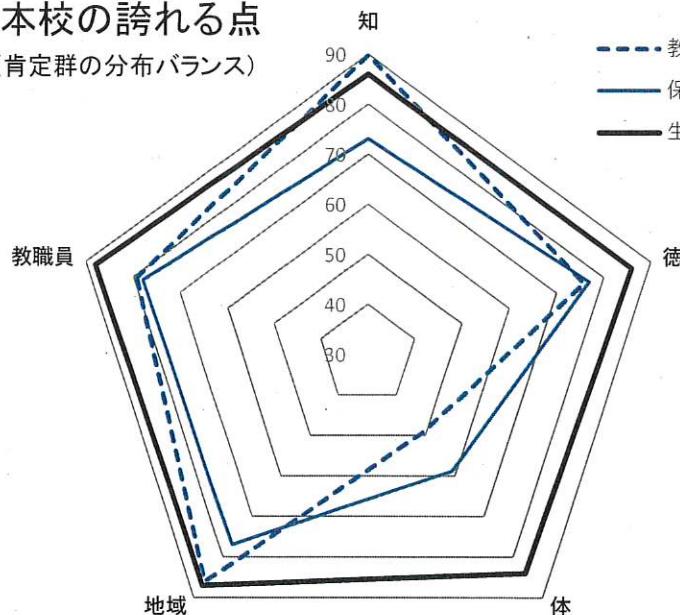
先生方の日々の指導や支援は本校の誇れる点である



■ そう思う ■ どちらかというとそう思う ■ どちらかというとそう思わない □ そう思わない

※生徒・保護者・教職員を比べるために、保護者の「わからない」を省いて割合を算出しています

本校の誇れる点 (肯定群の分布バランス)



<分析と今後について>

○生徒ほどの部分においても誇りに感じている割合が非常に高い。
○「体づくり」に対しては、新型コロナウイルスの感染対策による部活動や大会規模の縮小などで、十分に力を入れられていない。保健体育科の授業や部活動を基点に運動に対する意欲づけをし、校外でも運動に親しもうとする意識を高めていく必要がある。また、部活動は今後休日の活動を地域に移行していくことになる。積極的に施設開放をしたり、外部指導者を確保したりするなど、見直しを進めたい。

○生徒・教職員の「地域・保護者」を誇りに思う割合が非常に高い。今後は、家庭・地域の支援に感謝するだけでなく、生徒が地域に貢献する取組を、生徒とともに考え、取り組んでいきたい。

○昨年度同様、教職員を誇りに思っている生徒の割合が高い。今後も生徒や保護者との信頼感を醸成し、楽しい学校づくりにつなげたい。

生徒　自由記述を受けて

- ・「さらに丘中がよりよい学校になるには」という視点に基づいた意見やアイデアが多く見られ、生徒自身が主体的に学校を改善していくという強い意欲を感じられました。特に学級・学年を越えた交流活動に関する意見が多くありました。感染対策をしつつも、コロナ前のようにリーダー会や生徒会による交流活動を進めていきます。
- ・生活面では服装はじめ生活のきまりについて見直しを求める意見が多くありました。本年度は上着の着方について、生活委員会が中心となってルールの検討や周知を行いました。その他のことについても、今あるきまりが実情に即しているか、今後生徒とともに見直しを進めていきます。
- ・学習面では「わかりやすい授業」「授業内容のポイントの整理・確認」に関する意見が多くありました。どの教科でも授業の終わりに学習活動を振り返る活動を設定していますが、授業時間内に位置づけるなど、生徒が負担感をもたないよう改善を進めています。また「わからない」という声を大切に、今後も学び合いのある授業づくりを学校全体で取り組んでいきます。
- ・ICT機器の活用に関する意見が多くありました。タブレットを活用することによる学習効果が高いと感じる一方、使用上のルールやマナーについて問題意識をもつ意見も多くありました。今後も授業や学校生活における効果的なICT機器活用の在り方について、検討・改善を進めていきます。

保護者　自由記述を受けて

- ・生徒同様、服装はじめ生活のきまりに関するご意見を多くいただきました。本年度は上着のきまりについて生活委員会が中心となって見直し、試行期間を設けた後、変更しました。今後もこれまでの生活のきまりについて、生徒とともに見直しを続けていきます。
- ・学校からの案内や通信については、絆メールによる配信を検討中です。回答が必要な文書についても、forms の活用など検討を進めていきます。
- ・学習面では「わかりやすい授業」に関するご意見を多くいただきました。昨年度から2年間、市の委嘱を受け授業づくりに関する研究に取り組み、昨年10月に研究発表会を開催しました。今後も継続して研究に取り組んでいきます。
- ・ネットモラルに関する指導を入学説明会はじめ3年間で計画的・系統的に実施しています。適切な使い方について、ご家庭でも話題にしてくださいますようお願いします。
- ・部活動については、活動回数や時間の検討に関する要望が多くありました。また、外部指導者の拡充や市内中学校での合同による活動に関するご意見もいただきました。現在、県や市のガイドラインに沿って計画・実施しています。文部科学省からは令和5年度以降の休日の部活動について、地域に移行することが示されています。現時点で外部指導者として多くの方が部活動の指導にあたって下さり、たいへんありがとうございます。ただし、全ての種目において十分な指導者数を満たしていません。今後さらに地域の外部指導者・部活動指導員を拡充するなど、学校と地域が連携し、持続可能な部活動ができるよう、今後の部活動の体制づくりについて学校だけでなく、市内でも検討を進めています。

教職員　自由記述を受けて

- ・昨年度の学校評価を受けて設定した「五つの改善」のもと、特に授業づくりの改善について年々意識が高まっていることを感じます。本年度の取組を土台とし、今後も共通理解のもとで研究・研修を進めています。
- ・働き方改革に関する課題を多く抱えていると感じています。教育活動の見直しや外部委託、コミュニティスクールによる地域や保護者の協力体制づくりを進めています。
- ・保護者の皆様からは本年度も校内の消毒や環境整備等のボランティア活動に多くのご協力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。今後も生徒・保護者・地域の声を大切に、学校が何をすべきか見直し、改善を進めています。

教員一人一人の今後の取組 ～令和4年度 学校評価を受けて～

前向きに学び合う雰囲気や、コミュニケーションの土台として進んでいきたい。挨拶をすると気持ちよく返してくれたり、自ら我先にと挨拶をしてくれる生徒も多いが、他学年の教師や他人に挨拶をすることに慣れない生徒もいる。教師が進んで明るく気持ちの良い挨拶をしながらコミュニケーションを取り、模範を示していく。

生徒が通いたくなる学校を授業面から支える。夢中になって取り組める授業を目指す。教材の価値や歴史的、文化的な価値を考慮し、生徒が期待をもって題材に出合えるような演出を考え、夢中になれる授業を展開する。

生徒のしなやかな心を育てるために、ケアするところはケアするが、仲間同士で支え合える風土を作りたい。T&Tなどのペアトレーニングが有効だったと考える。学校行事が戻ってきて、合唱コンクールなど学校行事を経験した後の学級の様子を見ると関係が柔らかくなっている。脱口ナを勧めつつ、生徒同士でつながり、支え合えるよう支えたい。

ペア・グループ活動の充実により、一人一人の学びの保証を行える土台づくりが進んだと感じる。教員がより生徒の意見を聴き、つなぐことを授業づくりにつなげていけるよう、教員同士での情報交換や研修を重ね、力量向上に努めていく。

授業において、生徒自身が良いと思えることを選択できるよう生徒を支援したい。そのために、生徒同士をつなげる問い合わせや、生徒が聴き合い、学び合える授業を日頃から作れるように取り組みたい。学級経営についても同じだと考える。3年生の肯定群の増加をみると、生徒同士や教師とのコミュニケーションを基にした関わり合いを大切にしたいと感じた。

生徒が学び合う土台作りとして、コミュニケーショントレーニングを継続的に実践した効果があったと感じる。ただ、授業に活かされているかどうかが今後の課題であるため、教員が意図的な仕掛けをしていくことで、授業での学び合いにつなげていく。

目に見えない自然現象を、「見える化」することで、考えにくかった現象を解き明かす手立てとし、生徒の学習意欲を引き出せるようにしたい。また、生徒同士で聴き合う習慣をつけられるように、常に話し合う課題を授業の中で用意する。問題演習のときであっても、分からぬ問題に対して、できるだけお互いの自分の考えを出し合いながら問題を解いていく姿勢をもたせたい。

生徒の話に耳を傾ける。そのうえで授業や学級経営を行う。学習指導要領をよく読んで、指導の要点を理解した上で教材研究を進め、授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、指導と評価の一体化を図るために単元構想の中に評価機会と評価方法を明示する。

生徒一人一人ともっと向き合っていきたい。学習、学級、部活動など、生徒が安心して、自分の考えや思いを教員に伝えることのできる関係作り、環境作りを目指したい。

教科では、「教科書で教える」ということをもっと意識した単元構想や授業展開を考えていきたい。教科書をきっかけに、世の中や世界の出来事に興味をもち、その出来事についての自分の考えをもつ生徒を増やしたい。

一人一人が学びたいと思える授業づくりのためには、課題設定が大切である。毎回の授業で生徒が取り組みたいと思えるような課題を設定していく。また、一人では乗り越えられなくても、仲間となら乗り越えられるような課題にすることで、達成できる経験を積み重ね、生徒の自信につなげていきたい。

まずは生徒たちが安心して通える学校づくりをしていきたい。「自分の居場所はここでいいんだ」と思えるようなクラス経営をしたい。生徒たちだけでなく、保護者にも安心してもらえるように情報共有を積極的に行っていく。授業では、「学びたい」「知りたい」と生徒たちを主役にした授業を行っていきたい。ペア活動などはかなり定着してきたと思うので、引き続き行いながら、全員に学びのある授業をしたい。

生徒がペア活動などで聴き合いができるようになってきたが、一人一人が学びたいと思える授業づくりには課題がある。学びたいと思えるような手立てを考え実践していく必要がある。生徒に問い合わせを作らせてみたり、生徒の興味関心の高まる教材をもってきたりするなど新しい取組を来年度やっていきたい。

授業をはじめ、学校行事やその他の特別活動において、生徒が安心して活動できるきめ細かな配慮が必要だと感じる。授業に関して、グループ活動がより円滑に行われるよう、机間巡視をして生徒同士をつないでいくことで、授業から人間関係をつくっていけるようにしたい。外国語を通して、自分の考えを相手に伝えることを楽しむことができるよう、「話したい」「聴きたい」が生まれる授業をつくっていきたい。

互いの意見を聴き合い、学び合うことで、より良い演奏を目指し、曲への理解を深めていきたいと考える。同じ曲でも人によって感じ方が違い、新しい発見ができる。合唱練習やりコーダーの練習では、仲間からの指摘は参考になり、刺激にもなる。切磋琢磨しながら、互いに高め合う場面を取り入れていきたい。

授業づくりでは、生活と密着させることと、「なぜ?」と考え、探究するステップを引き続き大切にしていきたいです。けれども正直、日々の授業内容を進めることで精いっぱい、そこまで頭が回らないことばかりだなと思います。この学習内容ではここが鍵だという重点項目をしっかりとつかんでいきたいです。

また、タブレットの使用の様子や、課題の提出や服装など、意義をしっかり考えさせることを大切にしたいです。

子どもたち一人一人が大切に思われていると感じるよう、日々の接し方や言葉かけを意識したい。明るい挨拶をしてコミュニケーションを取り、ふとした変化に気づいていけるようにしたり、生徒の話にしっかりと耳を傾け、寄り添っていくようにし、悩みや困っていることを話せるように関係を作っていくたい。

一人一人を丁寧に見ることで、居場所となる学級となるように学級経営を行っていきたい。また、人の気持ちを思いやり、お互いに気持ちのよい生活をしていくためにはしなやかな心を育てる必要がある。そのためには、日頃から道徳教育を行っていくことが大切であると感じる。教科としての道徳の時間だけでなく普段の生活の中に感謝や礼儀など生徒が自分事として捉え、行動できるようになるよう、まずは、教師から働きかけをしていきたい。

生徒たちが安心できる環境づくりに努めていきたい。友達と会えることが嬉しい、ペアやグループの仲間と安心して話すことができ、授業の内容がよく分かるというように、誰もが学校に来て楽しいと感じられる学級経営や授業づくりをしていきたい。そのために、生徒一人一人の思いをしっかりと聴き、受け止めていく姿勢を大切にしたい。

自覚と探究を軸に、聴き合いを大切にしたことで生徒同士の聴く姿勢が意見をつなぐことにつながり深い学びが実感できたため、来年度も普段の授業から自分の立ち位置や生徒の言葉から授業をつくっていきたい。また、生徒が「考えたい」「気になる」といった内容で探究する授業にしたい。

普段の授業でも、常に、生徒の素直な発言に対して、質の高い意見を選び、全体に返していくことを意識しながら一つ一つの授業を大切にしていく。

「自ら考えて行動する」ということが、授業においても学校生活においても、さらには卒業後も大切な力になる。これは、経験しないと身に付かない力である。学校教育は一人ではなく集団で行っているので、学年のテーマにしたり、授業で「今までのことを活用して考える」機会を設けたりして、たくさんの経験を仲間と協力して積み重ねられるようにしていく。そして、最終的には個の力になるように、自らの力を調整するような機会を設定していく。

生徒とともに、もっと挨拶に力を入れようと思った。「いつでも・どこでも・誰とでも・何度も・自分から」を胸に挨拶をし、自分の学年・学級に関係なく、さまざまな生徒とつながりをもつことで、学校という場所への安心感につなげたい。生徒のしなやかな心を育てていくために、生徒の悩みや訴えを聞くだけではなく、ともに悩み、さまざまな視点から解決方法を探っていきたい。そして、私自身もしなやかな心をもつ教員になりたいと思った。

様々なご意見をいただきました。十分に受け止めて指導に臨むようにしたいとつくづく思いました。5年後には、投票権をもつ子どもたちです。その教育に携わる事の重大さをひしひしと感じます。年々生徒が幼くなっている実感と現実のギャップに、悩みます。家庭と連携して、明日を担うにふさわしい子どもの姿を、保護者と話し合いたいと思います。そして、学校が担うことと、家庭が担うことを互いに確かめ合いながら指導を展開することが大切であると思いました。

授業では知識理解の比重が大きくなっているように感じている。もっと多くの体験学習を通して生活実践力の土台を身につけられる工夫をしていきたい。何を学ぶのか、どんな力を付けていくのかを生徒目線で明確にし「やってみたい」を引き出すことを意識したい。また生徒の言葉を大切にし、共感していきたい。生徒同士がいろいろな考えがあり、いろいろな解決方法があることを認め合える雰囲気を作り、自己肯定感を高められるような授業がしたい。

どの生徒も活躍できる授業を心がけたいと思います。自信を無くしている生徒の自己肯定感をあげられるように学校生活を組み立てたいと考えています。学習においては毎時間の課題や学習の分量を明示し、見通しをもって授業に参加できるようにします。生活面においては、就労時を見据えて、自ら考えて行動できるようにしたいと思います。家庭とは、毎日の連絡帳や毎週の学級通信を通して、家庭で学校の話題が広がるようにして学校と保護者が共通の目標をもって進めるようにしていきたいと思います。

授業や学校行事など、様々なことが実施できて充実感を得られたと思う。自分たちの行事を自分自身でいいものにしたい！という気持ちをすごく感じた。行事だけでなく、自分事として捉えられるようにしていきたい。制服について、生活委員を中心に考え、試行期間を経て実施に至った。正しく着こなす、という大切にしたい部分をもって考えてつくりだすことができたと思う。何を大切にしたいか、を明確にしながら、自分たちでつくりあげる学級、学年、学校を目指していきたい。

生徒が授業において、「楽しい」と感じられるような学習を実現したい。受ける授業ではなく、自ら学びたいと思うような目的を持たせたい。また、共に学ぶことでより深められるという経験を多くさせたい。そのために、生徒にとってどこが躊躇やすいのかを理解しなければならない。教材研究と生徒理解に努めたい。

互いに尊重し合える学級を作るために、日々の授業の聴き合いを確実に行えるように学級経営をしていきたい。授業では、今後の超スマート社会に対応できる自ら学び自ら課題を見つけることができる生徒を育てていきたい。そのために常に研修などで学ぶことを続けていく。

学級経営と授業を一体と捉え、生徒同士が話し合える学級の雰囲気や、学び合える授業を目指していく。そのために、課題に対して探求する力や周りと話し合い、学び合う大切さを伝えていく必要があると感じる。また、一人一人の生徒の思いに寄り添えるよう、コミュニケーションをとっていくよう務める。保護者との生徒について共有していくことで、生徒と教員、生徒と保護者、保護者と教員のギャップを埋めていけるよう取り組みたい。

生徒が安心して登校できる学校でありたい。教室以外で過ごす生徒について、学年間で対応に差が出ないようにすること、保健室の利用の仕方等について改めて見直していく必要がある。また、レジリエンスを高めるための取組について、職員と保護者の共通理解のもとで、学校・家庭で取り組んでいけるような内容を工夫していきたい。

令和5年度 本校の「五つの改善」

学校評価を受けた各学年での話し合いを元に、学校としての五つの改善を考えました。

今後も、「子どもが通いたくなる学校」「保護者が通わせたくなる学校」「教職員が勤めたくなる学校」をめざし、日々改善を続けていきます。(赤字部分は昨年度からの変更点です)

1 一人一人が「学びたい」と感じられる授業を生徒とともにめざす

「やってみたい！」「解説したい！」「やり遂げたい！」「級友の考え方を聴きたい！」といった、生徒の意欲や主体性が高まる授業をめざします。

2 保護者や地域と連携した学校づくり・地域貢献をすすめる

保護者や地域とともに、生徒を支える。生徒が積極的に地域で活動することを通して、保護者や地域と連携した学校づくり・地域貢献をすすめ、その様子を各種通信やHP等で発信します。

3 生徒とともに学校全体を改善する

今までの「当たり前」にとらわれず、絶えず見直しを進め、みんなの笑顔が増えるよう、生徒会活動を中心に、生徒の声を生かした学校全体を改善します。

4 生徒のしなやかな心を育てる

少々のことではへこたれないしなやかさや粘り強さが生徒の心の中に育つよう、授業・行事・部活動等学校生活全般を通して、心の教育をすすめます。

5 関わり合いを大切にし、安心して過ごせる温かい学校を実現する

学校生活全般で、関わり合い認め合う活動をさらにすすめます。また、コミュニケーションの第一歩挨拶は、言葉だけでなく、目線や表情、所作でも気持ちを伝え合うことで、温かい学校づくりをすすめます。